ICMA & JSDA Annual Sustainable Bond Conference 2024 に参加しました

2024 年 11 月 22 日(金)、国際資本市場協会(ICMA)と日本証券業協会(JSDA)共催の「Annual Sustainable Bond Conference 2024 -サステナブル・ボンドを通じた持続可能な社会・経済全体の移行の実現」に登壇しました。

GX 推進機構は、国際資本市場協会(ICMA)と日本証券業協会(JSDA)共催の「Annual Sustainable Bond Conference 2024 -サステナブル・ボンドを通じた持続可能な社会・経済全体の移行の実現」に登壇しましたので、概要を公表します。また、ICMA におけるグリーン・ボンド原則等の策定をリードし、世界的に著名な ICMA 副 CEO である Nicholas Pfaff 氏と面談しました。

1. 「Annual Sustainable Bond Conference 2024」での登壇

世界的な ESG 投資への関心の高まりを受けて、ICMA はグリーン・ボンド原則(GBP)、サステナビリティ・リンク・ボンド原則(SLBP)、クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック(CTFH)等を策定し、グリーン・ボンドやトランジション・ボンド等の普及、発展を推し進めています。日本証券業協会は、これら原則の日本語訳を作成しているほか、ICMA との共催で、2017 年よりグリーン・ボンド等を普及するための国際カンファレンス「Annual Sustainable Bond Conference」を毎年開催しています。

［開催日付］　2024 年 11 月 22 日(金)
［開催場所］　ザ・キャピトルホテル東急

(1)パネルディスカッション「トランジション・ファイナンス：市場の発展とスタンダード」

［参加者］　パネリスト：　財務省 理財局国債企画課長 佐藤伸樹氏
みずほ証券 サステナビリティ推進部長 森下修氏
BNP パリバ マネージング・ディレクター Chaoni Huang 氏
GX 推進機構 理事 高田英樹
モデレーター：　BofA 証券 副社長 林礼子氏

(パネルディスカッションにおける主な意見)

- 近年、概念としてのトランジション・ファイナンスの必要性や重要性について国際的な理解は広がっているが、トランジション・ボンド等の金融商品への海外投資家の関心は十分に高まっていない。ICMA 等の機関において、こうした商品への投資を促進する環境を作ることが望まれる。

- もっとも、COP29では、移行戦略に基づくプロジェクトにどのように民間資金を誘導していくかが主なテーマであった。直近で、トランジション・ファイナンスに資金供給する機運が高まっているように感じる。
- アジアが中心となってトランジション・ボンドを発行しており、アジアがトランジション・ファイナンスの世界を牽引していく(呼び水となる)べきである。信用力の高い銀行がトランジション・ボンドを発行すれば、機関投資家の資金も集まりやすくなり、トランジション・ボンドの普及が加速するだろう。

(2)ゲストスピーチ「GX推進機構の概要」
[登壇者]　　　GX推進機構　理事長　筒井義信

筒井理事長から、GX推進機構の概要と役割について説明した上で、「GX推進機構はGX戦略推進の要として、また、政府と金融機関・事業会社をつなぐ架け橋としてその使命を果たしていく」と発言しました。

2. <u>国際資本市場協会(ICMA)のNicholas Pfaff氏との面談</u>

ICMAにおけるグリーン・ボンド原則等の策定をリードし、世界的に著名なNicholas Pfaff氏(ICMA副CEOサステナブル・ファイナンス・ヘッド)と、2024年11月21日(木)にGX推進機構にて面談しました。Nicholas Pfaff氏からは、世界におけるトランジション・ファイナンスの動向や、GX推進機構の運営について、様々な助言をいただきました。

Nicholas Pfaff 氏(写真右)と重竹 COO

(本発表資料のお問合せ先)
脱炭素成長型経済構造移行推進機構
担当者:財務・サステナビリティ推進部
高林、天達、清水、吉倉
メール:gx_acceleration_agency★gxa.go.jp
※[★]を[@]に置き換えてください。